厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）
分担研究報告書

# 幼児期の養育に対する家族支援体制作りの研究
## －３歳児健診事業を活用して－

分担研究者　田中康雄　国立精神・神経センター精神保健研究所　児童・思春期精神保健部
室長

**研究要旨**　児童精神保健の火急の課題は、児童虐待と軽度発達障害に関する対応策てあり、いすれも早期の家族支援対策か求められている。このため軽度発達障害の幼児期の家族支援体制作りを目標に３歳児健診事業を活用して、初年度は山梨県の大月保健所て簡便な３歳児健診スクリーニンクチェノクリストを用い、軽度発達障害に対する早期介入という観点からの予備的調査を行った。その結果、約 16。6%の子ともに支援・介入か必要性てある可能性か示された。

## A　研究目的

児童精神保健の火急の課題は、児童虐待と軽度発達障害に関する対応策てある。いすれも早期の家族支援対策か求められている。なかても、子ともにある軽度発達障害は、家族にとって養育上のストレスになりやすく、その後の子ともの成長に影響を及ぼすように思われるか、軽度発達障害は従来の１歳半、３歳児健診て十分にケアされる状況にない。本研究ては、３歳児健診事業を活用して幼児期の家族支援体制作りを目指してみたいと思う。

健診事業、特に３歳児健診事業を活用して、子ともにある発達の躓きや養育の難しさを保健師か早期に気付き、養育自体を支援することて、親か感しる養育上のストレスを軽減てきないたろうか、と考えた。ここて、重要なのは障害の早期発見、早期対応という医療モテルてはなく、子育ての難しさに対する「子育て支援」的な介入を検討したいということてある。

さらに、支援の方法を比較することて、より効果的かつ簡便な支援を供給することかてきないかということも検討したい。

## B　研究方法

早期の保健師によるスクリーニングから、軽度発達障害か疑われる子ともいる家族に対し、早期支援（介入）を提供することて、親のストレスは軽減されるという仮説を立て、初年度　は山梨県大月保健所にて簡便な３歳児健診スクリーニングチェノクリストを用いた調査を行った。次年度からは、山梨県においてプレ研究として行った３歳児健診時に用いるスクリーニンクチェノクリストを改正して用いることにしている。

このチェノクリストは、以下の４項目から成立している。すなわち、

1　育てやすさ、育てにくさ
2　１歳半健診の思い
3　子ともの気質
4　様子　言葉・行動・運動面、対人面、作業や学習、感覚面

てある。

さらに、次年度からは親のストレスを測定するために、PSI (Parenting Stress Index) 日本語版を使用することにしている。これは自己記入式て、養育のストレスを計る評価表てあり、今回は１０１項目からなるロンク版を使用する予定てある。

これは、親のストレスとして子ともの特徴は以下の６つのサフスケールから検討している。すなわち、

1　落ち着きなさ／多動
2　親を喜はせること
3　欲求の強さ
4　適応力
5　ムート
6　受容性

てある。

さらに、親のパーソナリティーと状況の要

因を、７つのサブスケールから検討している。これは、

1　能力
2　アタッチメント（愛着）
3　うつ
4　役割
5　配偶者
6　健康
7　孤独感

から成り立っている。

テータ収集については、約１００人の親を目標に、北海道（石狩、帯広、士幌）、山梨にある保健所に研究の協力を要請する予定てある。

次年度の研究スケシュールとしては、２００４年４月に各保健所に協力を要請し、スクリーニンクチェックリストと介入マニュアルを配布する。次に５、６月に各地てスクリーニンクを施行し、結果を検討し、発達障害か疑われる子とものいる家族を選ふ。これらの家族を対象に６、７月に親にＰＳＩを記入してもらう。その後、医師による事例検討を継続するクループと、保健師による介入のみのクループに分け、１１月下旬、介入３ヶ月後の親のストレスを再度自己記入してもらい、それらの結果を解析検討する予定てある。

（倫理面への配慮）

今回用いた３歳児健診スクリーニンクチェックリストには、「この調査は、子育ての過程における，母親の精神保健をよりよく理解し、必要てあれは子育て相談に活用するために行われるものてす。この調査におけるあなたのプライハンーについては、特定される形て外部に漏らさないよう守らせていたたきます。また、調査の開始および開始中いつても参加をやめることかてきますし、この調査結果についても請求することかてきます。この調査に関して質問かあれば下記に問い合わせてください。」といった、内容の一文を自己記入用紙の表紙に掲げ、あくまても自由参加てあること、不参加による影響のなさを伝え、守秘義務についても強調してある。

３歳児健診時に用いるスクリーニンクチェックリストは、健診事業の一環として、担当する保健士・機関からの同意を得て行っている。

## C　研究結果

初年度、われわれは山梨の大月保健所において約１年間の試験調査を行った。それによると 302 名の家族に、簡便な３歳児健診スクリーニングチェックリストを用い、50 名（16 6%）の子ともに支援・介入の必要性を認めた。

## D　考察

軽度発達障害の発現率は約１０％前後と考えられているのに対して、初年度のわれわれの調査結果ては、やや高めの 16 6%という数値得ている。これは今回の調査目的か早期診断を求めているのてはなく、早期の介入により家族、特に親の養育上のストレスの軽減を計ることを目標にしているため、このような数字になったと思われる。しかしなから、初年度　山梨て行ったテータはあくまても予備的調査てあり、親のストレスについての測定をしていない。従って方法の項て記載したように次年度は、発達障害か疑われる子とものいる親に、介入前後てＰＳＩを記入してもらい、その変化を調査することて、介入行為そのものの有効性を明らかにしたい。

早期介入については、保健師か行うことを想定しているか、その際その保健師を２つの方法による医師のサポートて、比較検討してみたい。

医師によるサポートとして、

1　介入マニュアル　＋　事例検討
2　介入マニュアルのみ

を準備した。ここては、より簡便な方法ても一応の成果か上かることを期待している。介入マニュアルとしては、文書て配布することを想定しているか、基本的な接遇から支援プロクラムの構築方法を含むものとしている。事例検討については、保健師と医師か、発達障害を疑われる子とものいる家族を個々に検討する体制を作り、開催に際しての時間、回

数、時期はコントロールしたうえて、比較することにしている。

## E　結論

初年度、われわれは山梨県の大月保健所て簡便な３歳児健診スクリーニンクチェノクリストを用い、軽度発達障害に対する早期介入という観点からの予備的調査を行った。その結果、約 16 6%の子ともに支援・介入か必要性てある可能性か示された。

## F　健康危険情報

該当事項なし。

## G　研究発表

### G-1　論文発表

田中康雄　発達障害のある子ともたちの生活環境。臨床心理学 4　187-192, 2004

## H　知的財産の出願　登録状況

該当事項なし。

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

| 著者氏名 | 論文タイトル名 | 書籍全体の編集者氏名 | 書　籍　名 | 出版社名 | 出版地 | 出版年 | ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

雑誌

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|---|---|---|---|---|---|
| Horiuchi J<br>Saigusa T<br>Sugiyama N<br>Kanba S<br>Nishida Y<br>Sato Y<br>Hinuma S<br>Arita J | Effects of prolactin-releasing peptide microinjection into the ventrolateral medulla on arterial pressure and sympathetic activity in rats | Brain Res | 958 | 201-209 | 2002 |
| Suzuki E<br>Nakaki T<br>Shintani F<br>Kanba S<br>Miyaoka H | Antipsychotic antidepressant anxiolytic and anticonvulsant drugs induce type II nitric oxide synthase mRNA in rat brain | Neurosci Lett | 333 | 217-219 | 2002 |
| Okada G<br>Okamoto Y<br>Morinobu S<br>Yamawaki S<br>Yokota N | Attenuated left prefrontal activation during a verbal fluency task in patients with depression | Neuropsycho biology | 47 | 21-26 | 2003 |
| Tsuji S<br>Morinobu S<br>Tanaka K<br>Kawano K<br>Yamawaki S | Lithium but not valproate induces the serine/threonine phosphatase activity of protein phosphatase 2A in the rat brain without affecting its expression | Journal of Neural Transmission | 110 | 413-425 | 2003 |

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|---|---|---|---|---|---|
| Katagiri H<br>Kagaya A<br>Kozuru T<br>Jitsuiki H<br>Kawano K<br>Morinobu S<br>Yamawaki S | Effect of repeated treatment with lamotrigine on locomotor activity and on DOI-elicited wet dog shakes in rats | Biogenic Amines | 17 | 149-159 | 2003 |
| Morinobu S<br>Fujimaki K<br>Kawano K<br>Tanaka K<br>Takahashi J<br>Ohkawa M<br>Yamawaki S<br>Kato N | Influence of immobilization stress on the expression and phosphatase activity of protein phosphatase 2A in the rat brain | Biological Psychiatry | 54 | 1060-1066 | 2003 |
| Kagaya A<br>Okamura H<br>Takebayashi M<br>Akechi T<br>Morinobu S<br>Yamawaki S<br>Uchitomi Y | Mood disturbance and neurosteroids in women with breast cancer | Stress and Health | 19 | 227-231 | 2003 |
| Hasegawa H<br>Osada K<br>Misonoo A<br>Morinobu S<br>Yamamoto H<br>Miyamoto E<br>Asakura M | Chronic carbamazepine treatment increases myristoylated alanine-rich C kinase substrate phosphorylation in the rat cerebral cortex via doun-regulation of calcineurin A $\alpha$ | Brain Res | 994 | 19-26 | 2003 |
| Ueda K<br>Okamoto Y<br>Okada G<br>Yamashita H<br>Hori T<br>Yamawaki S | Brain activity during expectancy of emotional stimuli An fMRI study | NeuroReport | 14 | 51-55 | 2003 |
| Shirao N<br>Okamoto Y<br>Okada G<br>Okamoto Y<br>Yamawaki S | Temporomesial activation in young females associated with unpleasant words concerning body image | Neuropsycho biology | 48 | 136-142 | 2003 |
| Tanaka T<br>Doya K<br>Okada G<br>Ueda K<br>Okamoto Y<br>Yamawaki S | Different cortico-basal ganglia loops specialize in reward prediction on different time scales | Neural Information Processing Systems Foundation | | | 2003 |

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|---|---|---|---|---|---|
| Tanaka S<br>Doya K<br>Okada G<br>Ueda K<br>Okamoto Y<br>Yamawaki S | Different cortico-basal ganglia loops specialize in reward prediction on different time scales | Neural Information Processing Systems Foundation | | | 2003 |
| Sugiyama N<br>Kanba S<br>Arita J | Temporal changes in the expression of brain-derived neurotrophic factor mRNA in the ventromedial nucleus of the hypothalamus of the developing rat brain | Mol Brain Res | 115 | 69-77 | 2003 |
| Takemoto-Kimura S<br>Terai H<br>Takamoto M<br>Ohmae S<br>Kikumura S<br>Segi E<br>Furuyashiki T<br>Arakawa Y<br>Narumiya S<br>Bito H | Molecular cloning and characterization of CLICK-III /CaMKIg a novel membrane-anchored neuronal Ca2+/calmodulin-dependent protein kinase (CaMK) | J Biol Chem | 278 | 18597-18605 | 2003 |
| Arakawa Y<br>Bito H<br>Furuyashiki T<br>Tsuji T<br>Takemoto-Kimura S<br>Kimura K<br>Nozaki K<br>Hashimoto N<br>Narumiya S | Control of axon elongation via an SDF-1a / Rho / mDia pathway in cultured cerebellar granule neurons | J Cell Biol | 161 | 381-391 | 2003 |
| Matsuoka Y<br>Furuyashiki T<br>Bito H<br>Ushikubi F<br>Tanaka Y<br>Kobayashi T<br>Muro S<br>Satoh N<br>Kayahara T<br>Higashi M<br>Mizoguchi A<br>Shichi H<br>Fukuda Y<br>Nakao K<br>Narumiya S | Impaired adrenocorticotropic hormone response to bacterial lipopolysaccharide in mice deficient in prostaglandin E receptor EP1 and EP3 subtypes | Proc Nat Acad Sci USA | 100 | 4132-4137 | 2003 |

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|---|---|---|---|---|---|
| Bito H<br>Takemoto-Kimura S | Ca2+/CREB/CBP-dependent gene regulation a shared mechanism critical in long-term synaptic plasticity and neuronal survival | Cell Calcium | 34 | 425-430 | 2003 |
| Bito H | Dynamic control of neuronal morphogenesis by Rho signaling | J Biochem | 134 | 315-319 | 2003 |
| Sawada T<br>Morinobu S<br>Tsuji K<br>Kawano T<br>Watanabe T<br>Suenaga T<br>Yamawaki S<br>Nishida A | Reduction in levels of amphiphysin1 mRNA in the hippocampus of aged rats subjected to repeated variable stress | Neuroscience | in press | | |
| Asahi S<br>Okamoto Y<br>Okada G<br>Yamawaki S<br>Yokota N | Negative correlation between right prefrontal activity during response inhibition and impulsiveness a fMRI study | Archives of Psychiatry and Clinical Neuroscience | in press | | |
| 近藤武夫<br>橋本優花里<br>利島 保 | 乳幼児研究におけるイメーンンク研究の効用と限界(2) | 広島大学大学院教育学研究科紀要第三部（教育人間科学関連領域） | 52 | 247-251 | 2003 |
| 田中康雄 | 発達障害のある子ともたちの生活環境 | 臨床心理学 | 4 | 187-192 | 2004 |
| 橋本優花里<br>近藤武夫・<br>利島 保 | 乳幼児研究におけるイメーシンク研究の効用と限界(1) | 広島大学大学院教育学研究科紀要第三部（教育人間科学関連領域） | 印刷中 | | |

20030704

以降は雑誌/図書等に掲載された論文となりますので、
「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。